

初級日本語学習者を対象とした 「歌のクラス」の実践報告

加藤 あさぎ 関 裕子

要 旨

本稿は2013年秋学期の日本語予備教育コースでおこなった「歌のクラス」の授業について報告するものである。「歌のクラス」では日本語初級レベルの学習者を対象に、教師による日本の歌の紹介と学習者による自国の子どもの歌の紹介の2つの活動を行った。学習者の発表での発話から、言語面での学びがあったこと、「歌のクラス」の活動を行うに当たって必要かつ有用な語彙・表現があることが明らかになった。また、授業後に実施したアンケート調査では、学習者が活動を楽しみ、日本語や日本文化、他の国の文化を学ぶことができたという意見が得られた。加えて、時間の管理や教師が紹介する日本の歌の紹介への要望など、よりよい活動に向けて検討すべき課題も明らかになった。

【キーワード】 初級日本語学習者 歌 活動 発話

A Report on a "Song Class" for Beginning Level Japanese Language Learners

KATO Asagi, SEKI Yuko

[Abstract] This paper reports on a "Song Class" conducted in the fall Intensive Japanese Course for Beginners in 2013 at the International Student Center of the University of Tsukuba. This class consisted of two activities: 1) The teacher introduces Japanese songs, and 2) the learners introduce child songs of their countries. Effects on the vocabularies and pronunciation on the learners, and the fact that necessary and useful vocabularies and expressions became available during the "Song Class" became clear through the speeches made by the learners. Furthermore the results of a questionnaire survey conducted after the class show that learners were able to enjoy activities and learn Japanese, and also the culture of Japan and other countries. In addition, results indicated issues about the introduction of Japanese songs and time management for activities, and so forth.

[Keywords] beginning Japanese learners, song, activity, speech

1. はじめに

筑波大学留学生センターでは、大使館推薦で来日した大学院進学希望の国費留学生や教員研修留学生等を対象とする日本語予備教育コース（以下、予備教育）を開設している。予備教育では、日常生活および大学での研究に必要な日本語力の育成のための授業に加えて、鶴町（2008）、三谷（2014）のカルタを使用・作成した活動や、鈴木・ヨフコバ（2014）の習得度の異なる学習者に対して実施した日本文化クラスなど、日本語や日本文化について楽しみながら学ぶ授業（以下、お楽しみクラス）を取り入れている。

2013年度の秋学期のお楽しみクラスでは、新たな試みとして歌を取り入れた授業（以下、歌のクラス）を実施した。日本語の授業で歌を活用することについて、国際交流基金（1999、2010）は、日本語の発音、語彙、文法、表現、読解、日本事情（季節・年中行事など）を教える利点があるとしている。また、国際交流等のイベントにおいて、歌が活用されることも少なくないことから、歌のクラスでは、教師による日本の歌の紹介と学習者による自国の歌の紹介を行うことにした。本稿では歌のクラスの概要と、授業の中で行った学習者が自国の歌を紹介する活動「わたしの国の歌」で得られた発話データおよび授業アンケート調査の結果から、授業内容の改善に向けての課題を述べる。

2. 歌のクラスの概要

2.1 実施時期および開講時間

予備教育は春学期（4月開講）と秋学期（10月開講）に、各学期1日4コマ（1コマ75分）×週5日×15週で行われる。2013年度の秋学期の予備教育では、お楽しみクラスが1日1コマ（週5コマ）開講された。本稿で報告する歌のクラスは2013年度の秋学期のお楽しみクラスの1つである。毎週金曜日の4コマ目に実施した。なお、お楽しみクラスは曜日により開始時期が異なり、歌のクラスは第6週から全10回で実施した。

2.2 学習者

学習者は来日前の日本語学習経験がないゼロ初級クラス8名と、来日前に日本語学習経験があり、初歩的な日本語力のある初級前半クラス5名の合計13名で、全員教員研修留学生であった。国籍はインドネシア（3名）、ウガンダ（1名）、ウズベキスタン（1名）、オマーン（1名）、タイ（1名）、中国（1名）、フィジー（1名）、フィリピン（1名）、ブルキナファソ（1名）、メキシコ（1名）、ミャンマー（1名）である。

2.3 歌のクラスのねらい

本クラスはゼロ初級と初級前半の2クラス合同で、各クラスの担当者2名がチームティーチングで行い、ねらいを以下のように設定した。

- ・日本の歌および、学習者が母国の歌を紹介する活動を通して、楽しみながら、日本語の表記・語彙・表現・文化について学ぶ。
- ・発表を通して、日本語の運用力を向上させる。

全10回の内容は日本の歌の紹介（1回目から3回目および6回目から9回目）、学習者が自国の歌を紹介する「わたしの国の歌」の発表準備（4回目と5回目）、発表（6回目から10回目）からなる。

以下に、日本の歌の紹介、発表準備、発表について述べる。

2.4 日本の歌の紹介（授業1回目～3回目および6回目～9回目）

日本の歌の紹介は、教師主導で行った。その際、学習者を3～4人のグループに分けた。各グループは、ゼロ初級の学習者と初級前半の学習者から成るよう配慮した。

1回目はDREAMS COME TRUEの『LOVE LOVE LOVE』、2回目はアニメ『ドラえもん』の『ドラえもんの絵描き歌』、3回目は『大きな栗の木の下で』『ぞうさん』『こぶたぬきつねこ』である。3回目に子どもの歌を取り上げたのは、4回目以降の発表準備の際、学習者が選ぶ歌をイメージしやすいようにと考えたことによる。

6回目から9回目は、学習者による発表終了後の時間を利用した。演歌（6回目 北島三郎『与作』）、季節の歌（7回目『お正月』）や日本レコード大賞について（8回目）を取り上げ、日本の文化についても、適宜説明を加えて紹介した。9回目は『かえるの合唱』で輪唱を楽しんだ。

なお、紹介する歌を選考する際の留意点としては、速すぎず歌いやすいこと、歌詞が短く、使われている語彙・文法が初級の学習者でも理解がしやすいこと、歌詞や曲に問題がないことが挙げられる。

毎回、A3サイズ（印刷の向きは縦）で、左半分に歌詞、右半分に未習の語彙・表現の英語訳を載せたハンドアウトを配布した。

日本の歌の紹介の流れは主に以下のようなものである。

- ①グループ分け、②タイトルを板書し、意味を説明。学習者に歌についてイメージさせる、③歌を聞く（ウェブ上で公開されている音声および映像を使用）、④グループで歌のイメージについて話し合う、⑤歌のイメージについて、グループごとに発表、⑥歌詞を配布し、歌詞の意味を確認、⑦教師のあとについて音読、⑧歌を聞く、⑨合唱

2.5 発表準備（4回目、5回目）

学習者による自国の歌の紹介「わたしの国の歌」についての説明は、3回目の授業の後半に行った。発表はクラスで行うが、日本の小学校を訪問した際に自国の歌が紹介できることをこの活動の目的としていることを伝えた。そのため、小学生が親しみやすいように、

子ども向けの歌を選ぶよう指示した。

発表準備では配布するハンドアウト¹⁾の作成を行った。準備の手順は以下のとおりである。

- ①選曲し、歌詞を国の言語で書く。
- ②歌詞を翻訳する。教師は翻訳のチェックやアドバイスを行う。
- ③歌詞の下に、カタカナで発音を書く。
- ④パソコンで歌詞を入力し、ハンドアウトを作成する。
- ⑤教師による最終チェック

日本の小学生に歌を紹介するという目的に合わせ、歌詞にはアルファベットを用いた発音や英語訳は付けないよう指示し、クラスでの発表で、他の学習者がわからない時には、口頭で説明させることにした。特にカタカナで発音を書くことについては、徹底した。カタカナは既習であるにもかかわらず、読みや発音、書きの面で十分に定着していない様子が日々の授業において、見受けられた。そこで、発音をカタカナで書くことと、カタカナで書かれた歌詞を読むことにより、カタカナ表記に慣れてほしいと考えた。学習者の中には、語彙レベルで英語訳をつける者、カタカナだけでなく、アルファベットで発音を示す者もいたが、最終的には学習者の意向を尊重した。

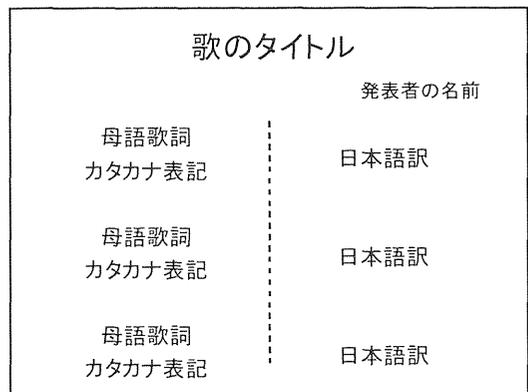


図1 ハンドアウトのレイアウト

ハンドアウトのレイアウトを図1に示した。用紙サイズはA4、印刷の向きは横とした。

発表時間は1人15分とした。なお、発表の進行、時間配分については発表者に一任した。また、発表で使用する表現等についても、特に提示・指定はしなかった。

2.6 発表（6回目～10回目）

発表は授業1回につき2名～3名が担当し、6回目から10回目の5週に渡って実施した。発表担当者（以下、発表者）が配布するハンドアウトは、発表当日に教師が人数分印刷した。

発表の進行には順序の違いはあったものの、教師による日本の歌の紹介と同様に、ハンドアウトの配布、歌のタイトルの紹介、歌詞の意味の確認、音読、歌を聞く、合唱、が盛り込まれていた。また、発表にはさまざまな工夫も見られた。ある発表者はキーボードを持ち込み、自ら伴奏を行った。また、日本語に翻訳した歌詞を1文ずつカードにしたものを配布し、グループで歌詞の順番を考えさせた。さらに、グループごとに合唱させ、どの

グループが上手に歌えるかを競わせていた。また別の発表者は歌のタイトルが『ぞうさん』だったことから、ホワイトボードに象の絵を描き、歌詞に出てくる体の部位を日本語で確認・紹介し、歌に合わせて象の絵描き歌も披露した。他にも、歌に合わせた手の振りを教える者、子守唄に合わせて子どもを抱きかかえ揺らしてあやすジェスチャーを指示する者もいた。なお、上記はいずれも日本語力の高い初級前半クラスの発表者によるものである。

発表時間（1人15分）の厳密な管理は行わなかったが、大幅に時間を越えた者については、教師が終了を促した。そのため、発表時間は短いもので約8分、長いもので約27分となった。発表の様子はビデオで撮影した。撮影は教師の一方が担当した。ビデオカメラは固定せず、撮影者は必要に応じて、教室内を移動した。

3. 発表における発話

3.1 観察する発話について

本クラスは2.3で述べたように、「発表を通して、日本語の運用力を向上させる」ことをねらいの一つとした。そこで、本章では、発表における学習者の日本語の運用力の実態を明らかにすること、「わたしの国の歌」の発表において必要となる日本語の語彙や表現を明らかにすることを目的とする。そのために、学習者が発表において実際にどのような日本語を使用し、学習者の間でどのようなやりとりが行われていたかを観察し、そこに見られた特徴について述べる。

観察する発話については、発表を撮影したビデオの映像・音声をを用い、『基本的な文字化の原則 (BTSJ)』（宇佐美 2011）に従って文字化した。本稿における発話例は宇佐美 (2011) を一部改変し、ライン番号、話者、発話内容のみを示す。話者を示すための記号（話者コード）は左から順に、学習者の日本語レベル [ゼロ初級クラス=A、初級前半クラス=D]、性別 [男性=M、女性=F]、発表順 [01~13] (3.2.1の [例1-1] の「話者」を参照) とした。ゼロ初級クラス担当教師はTF01、初級前半クラス担当教師はTF02とした。また、13ある発表を区別するため、ライン番号の頭には発表者の話者コードを付している点が宇佐美 (2011) とは異なる。なお、「発表者」というのは歌の紹介を行う学習者のことであり、本章の3.2以降で使用する「学習者」は発表者を除いた学習者を指す。

3.2 発話の観察

発表中の発表者と学習者の発話から、様々なやりとりが観察された。

まず、発表者が適切な語や表現が産出できない際に、学習者が発表者の発話を助けるようなやりとりが観察された。

[例 1-1]

ライン番号	話者	発話内容
DM09_100	DM09	はい、これは、あー、歌の一、あー…,,
DM09_101	DM01	ことば??。
DM09_102	DM09	ことば、歌のことば、はい。

[例 1-1] は、発表者DM09が歌詞が1文ずつ書かれたカードを配り、グループでその順番を考えるように指示を与える場面である。DM09が「歌詞」にあたる語を説明するために「歌の」と言ったあとで適切な語が産出できずに言い淀むと、学習者DM01が「ことば」と言った。それを聞いたDM09は、「歌のことば」と言うことができた。

[例 1-2]

DF05_110	DF05	皆さん… [指を回す],,
DF05_111	DM01	リピート。
DF05_112	DF05	リピートします。

[例 1-2] では、発表者DF05の指を回すジェスチャーに対して学習者DM01が「リピート」という語を教えた。それにより、DF05は学習者に「リピートします」と指示を出すことができた。

[例 1-3]

AM04_9	AM04	これ、ウガンダの、歌、あー、名前、カパー、エゴバ、エメッセ、日本の、あー、it's a, ねこ??、が、ねずみ、を、追いかけます、あー、子どもの、[AF06を見ながら] song。
AM04_10	AF06	歌。
AM04_11	AM04	歌。

[例 1-3] では、発表者AM04が「歌」を産出できずに英語で「song」と言ったのに対して、学習者AF06が「歌」を教えた。それにより、AM04は「song」を「歌」に直し、その後、発表中に「song」と言うことはなかった。

また、学習者による発話が発表者の誤りの修正につながるやりとりも観察された。

[例 2-1]

AF03_27	AF03	あー、うってください。
AF03_28	DF05	はい(はい)。
AF03_29	AF06	歌って。
AF03_30	AF03	歌ってください。
AF03_31	AF03	皆さん、歌ってください。

[例 2-1] では、発表者AF03が「歌ってください」と言うべきところを「うってください」と言ったのに対して、学習者AF06が「歌って」と誤りを指摘している。それにより、AF03は、「うってください」を「歌ってください」に修正し、さらに、「皆さん、歌ってください」と適切な指示が出せた。

[例 2-2]

- DM09_105 DM09 8まん ‘枚’， あー， グループでー， 考えてー， 考えてー， 決めます， 決めます。
- DM09_106 DM09 あー， あー， 何か ‘が’ 1番， 何か ‘が’ 2番， 何か ‘が’ 3番， 何か ‘が’ ， あー， 最後， 最後のカード。
- DM09_107 DM09 あー， それから， あー， 日本語の一訳??， translationは訳??， 訳があります， この日本語で考えます， 大丈夫ですか?。
- DM09_108 DM01 もちろん。
- DM09_109 DM09 [カードを配る]全部で， 全部でいくつですか?。
- DM09_110 DM01 全部で7枚。
- DM09_111 DM09 はい， えー??， 8枚。

[例 2-2] では、DM09_105で発表者DM09は「枚」を「まん」と発音している。その後のやりとりの中で学習者DM01の「全部で7枚」(DM09_110)を聞いたことにより、DM09は「まい」と正しく発音している。

以上のような学習者が発表者を助けるようなやりとり、学習者による発話が発表者の誤りの修正につながるやりとりからは、発表者がクラスメイトである学習者からの助けを得て適切な語や表現が使用できた様子がうかがえる。こうした場面は複数観察された。教室活動における中級後半から上級前半レベルの学習者間のやりとりを文字化して分析した保坂・奥原(2004)では、「言語に関しては、語彙・音声・表記についての学びが観察された」としているが、今回の発表においては、特に、語彙・音声について同様のことが言えそうである。こうした学びが観察されたのは、教師が発表者にクラスコントロールを一任していたことや、誰もが自由に発話できるクラスの雰囲気があったことによるのではないかと考えられる。

一方、[例 3-1]のように発表者の英語がそのまま受け入れられることもあった。

[例 3-1]

- AM13_82 AM13 YouTube, み, 見ます, 一緒に, あー, 《少し間》singします<全員で笑い>。
- AM13_83 DM09 『YouTube見ます, singします』(<全員で笑い>)。
- AM13_84 AM11 カタカナで<笑い>。

[例 3-1] では発表者AM13が「歌います」が言えずに、「singします」に置き換えている。発表中に学習者が「歌います」を教えることはなく、AM13はその後も「singします」と学習者に指示していた。AM13はゼロ初級クラスに在籍し、発表中に発話が日本語から英語に切り替わることも多かった。

[例 3-2]

- AM12_190 DM09 歌ってるように。
 AM12_191 DF05 歌を、お願いします。
 AM12_192 AM12 歌の、メロディー??。
 AM12_193 DF07 はいはい。
 AM12_194 AM12 ヨネ[歌詞を読む]。
 AM12_195 DM09 えっ??。
 AM12_196 DM01 No。
 AM12_197 AM12 一緒に?。
 AM12_198 AM11 Sing, sing (Sing, sing)。
 AM12_199 AM12 Sing, はい。

[例 3-2] は、発表者AM12が学習者から歌うことを要望される場面である。学習者DM09が「歌ってるように」と言うと、それに同意した学習者DF05も「歌を、お願いします」と続けて言う。しかし、AM12はそれらの発話の意図が理解できず、歌わずに歌詞を読み始めた。そこで、学習者DM01は英語で「No」と言い、学習者AM11は「Sing」と英語でAM12に伝えた。AM12もゼロ初級クラスに在籍し、発表中に発話が日本語から英語に切り替わるが多かった。

以上のような日本語力の低い発表者が言いたいことが適切な日本語で言えなかったり、英語を頻繁に使用したりする様子から、発表者が初級レベルである点に留意し、発表を行う際に必要な語彙や表現の事前の指導が必要であることと、歌のクラスを円滑に進めるために必要な語彙や表現があることが感じられた。例えば、合唱を指示する合図である。合唱の合図には「いち、に、さん」が最も多く使用されていたが、発表者ごとに速さや間の取り方が異なっていた。そのため、4番目の発表者AM04の発表中に教師が「さん、はい」を教えた。

[例 4-1]

- AM04_207 AM04 全部。
 AM04_208 DF07 はい。
 AM04_209 DF05 カパー。
 AM04_210 DF07 カパー<全員で笑い>。

- AM04_211 DF07 いち、に、さん。
AM04_212 AM04 いち、に、さん、し、ごー<全員で笑い>。
AM04_213 DF07 いちから、さんまで。
AM04_214 TF02 よく日本語で、よく日本語で、『さん、はい』と言います、よく使います(あー)。
AM04_215 TF02 『さん、はい』。
AM04_216 AM04 いち、に、さん、はい。

[例 4-1] では、初めに発表者AM04は「全部」と言って合唱を促しているが、学習者の声が揃わず、合唱が始められなかった。学習者DF07がこれまでの発表で使用されている「いち、に、さん」を教えたが、AM04は「いち」から「ご」までをカウントし、全体から笑いが起こったところで教師が介入した。それにより、AM04は「いち、に、さん、はい」で指示を出した。AM04は6回目の授業の1人目の発表者で、同日に発表した他の2名の発表者も「いち、に、さん、はい」を使用した。しかし、翌週の7回目以降の発表では再び「いち、に、さん」が使用されていた。

[例 4-2]

- DM01_138 DM01 いち、に、さん、全部で、全部一緒に。

また、[例 4-2] は発表者DM01が合唱を指示する場面であるが、「みんなで」「みんな一緒に」と言うべきところが「全部で」「全部一緒に」になっていた。

こうしたことから、歌のクラスを円滑に進めるために必要な語彙や表現を予め確認・指導しておくことの重要性が感じられた。具体的な語彙・表現については後で提案したい。

4. 学習者アンケート

4.1 実施時期、方法

今後の授業内容の改善を目的とし、学習者13名に対して、アンケート調査を実施した。調査はアンケート用紙を用い、授業の最終日に授業時間内で実施した。アンケートの質問項目は、クラス全体に対する評価・感想（5問）、学習者自身の発表についての自己評価・感想（4問）について問うものである。さらに、アンケート用紙の最後に、クラスについて自由に述べる欄を加えた。質問は日本語と英語の両言語で表記し、回答は日本語か英語で書くよう指示した。また、アンケート用紙には、授業の改善と研究の資料とすることを目的としていること、成績評価には影響しないことを明記した（資料1参照）。

アンケート用紙はその場で回収し、学習者13名全員から回答を得ることができた。

アンケート用紙は無記名としたため、回答の取りまとめに際し、回答者を示す任意の記号A～Mをつけた。以下では、アンケート調査で得られた回答を概観する。なお、アンケー

ト調査で得られたすべての回答については資料2を参照されたい。

4.2 回答結果

4.2.1 クラス全体について

「クラス全体について」の質問1「このクラスの活動はどうでしたか。」では、A「とてもたのしかったです。みんなはうたうので日本ごをならってまから、日本語がよくなりました。」、B「このクラスの活動はおもしろいです。」(原文ママ)、G「友だちの国の子どもの歌を習うのは本当におもしろかった。」、H「金曜はみな疲れているから、リラックスできる。」、K「日本の文化だけでなく、他の国の文化も知ることができた。」(筆者訳)など、13名中12名が活動に対して肯定的ととれる回答を述べていた。その一方で、J「活動全体については興味深いが、時間が長すぎた。」(筆者訳)という回答もあった。

質問2「活動の回数はどうでしたか。」では、A「いちしゅうに1かいがいいです。」(原文ママ)、I「時間は十分だ。しかし、もっと日本の歌を知りたい。」K「週に1回は適当だった。」(筆者訳)など、13名中12名が十分もしくは適当だったとしていた。しかしながら、J「長過ぎて、活動が多すぎると思う。」(筆者訳)という回答もあった。Jは質問1でも時間について言及し、否定的な意見を述べていたが、Jはこのアンケート調査を、予備教育コース全体について問うアンケートと誤って回答している可能性がある(これについては、Jの「クラス全体について」の質問5および「発表について」の質問2、3、その他の回答を参照されたい)。

以上の結果から、この活動自体と実施時間および回数は大半の学習者に好評だったと言えよう。

質問3「先生が紹介した日本の歌はどうでしたか。」については、C「とてもおもしろくて、いい歌だった。」(筆者訳)など、おもしろかった、興味深かったという回答が複数得られた。また、E「音楽は刺激をもたらし記憶を助けるから、クラスで学んだ日本の歌により、より簡単に日本語の基本的な語彙を学ぶことができた。」(筆者訳)といった回答が見られたことから、歌を通して楽しみながら、日本語を学習する機会を提供することができたのではないかと考える。また、G「おもしろかったが、アニメソングも知りたかった。」、K「クラスで習った子どもの歌は好きだが、JPOPが好きなので、もっとJPOPも習いたかった。」、M「クラスで紹介した歌は好きだが、日本の歌手の名前ももっと知りたかった。」(筆者訳)といった要望も見られた。

質問4「この活動は日本語の勉強に役に立ちましたか。」では、A「あたらしいことばがたくさんならいました。」(原文ママ)、C「教科書に載っていない日本についてたくさん学んだ。」、F「書く技能のレベルアップを助けた。」、K「クラスでは学ばなかった語彙がたくさんあった。特に発音を学んだ。」(筆者訳)などの回答があった。また、語彙について

は、13名中5名が言及しており、語彙の学習に役に立ったと感じている学習者が少なくないことがうかがえる。

質問5「クラスの活動について、要望や改善したほうがいい点があればおしえてください。」では、L「もっと日本の歌を習いたかった。」、M「子どもの歌だけでなく、大人の歌も習いたかった。もっと歌手やバンドの名前も知れたかった。」(筆者訳)など、紹介する歌に対する要望が複数挙げられた。また、D「歌の翻訳に焦点を当てると役に立つだろう。」、F「歌の教え方のモデルがあるとよい。」(筆者訳)と、活動内容に対する具体的な提案もあった。

以上から、このクラス全体については概ね好評だったと思われるが、紹介する日本の歌や活動内容については今後検討したい。

4.2.2 発表について

「発表について」の質問1「準備(母語歌詞、カタカナ表記、日本語訳、タイピング)はどうでしたか。」では、準備の時間がよかった、必要だったとする回答が複数見られた。また、教師の補助が助けになったとする回答(C、G)、カタカナの学習に効果があったとする回答(L、F)もあり、カタカナに関しては、I「ちょっと難しい。特にカタカナに関して。」(筆者訳)という回答もあった。実際に、歌詞の発音をカタカナにする作業において、日本語にはない発音を学習者の力だけではうまくカタカナにできないことがあった。

質問2「クラスでの発表(日本語で話すこと、歌うこと、時間)はどうでしたか。」では、E「刺激的で楽しかった。全部好きだ。」、I「楽しい。」、M「おもしろくて、やりがいがある。」(筆者訳)など、肯定的な評価がある一方で、D「うまくいったと思うが、おそらくいくつかは十分ではなかった。」、K「クラスメイトに対して日本語で発表すること、自分の言語を説明することが難しかった。」(筆者訳)など、自身の発表の反省について述べている者もいた。また、H「おそらく時間制限を設けたほうがいい。」(筆者訳)と、発表時間が15分を大幅に超えた者や、10分程度で終わってしまった者がいたことを指摘したと思われる意見も挙げられていた。

質問3「自分の発表について、よかった点を書いてください。」では、B「私の歌は簡単で、短いです。」(原文ママ)、F「短くて簡単な歌」(筆者訳)など、選んだ歌が短いまたは簡単だったことを挙げている者が複数いた。実際に、歌詞が短いまたは簡単で覚えやすい歌の発表が比較的スムーズに進んでいた一方で、歌詞が長いものやテンポが速い歌では、うまく歌えなかったり、難しいという声が上がったりしたことが影響していると思われる。自分が紹介した歌をクラスで歌えた、楽しめた、という実感が得られたことをよかった点だと評価しているのであろう。また、発表での工夫(YouTubeの使用(G)、キーボードでの伴奏(K)、絵描き歌の紹介(A))を評価している者や、E「発表後、クラスで習った日

本語を使うことに自信が持てた。」(筆者訳)と述べている者もいた。

質問4「自分の発表について、改善したほうがいい点があれば書いてください。」では、L「もっと短い歌を選ぶべきだった。」、F「YouTubeまたは絵を使う。」、K「ビデオプレゼンテーションがクラスのコンピュータで映せなくて残念だった。発表を始める前に再確認するべきだった。」(筆者訳)など、歌の長さ、事前の準備不足に関するものや、A「日本ごではなすこと」(原文ママ)や、D「声、視覚補助、文法、流暢さ」(筆者訳)、助詞の用法(E)など、日本語力に関するものなどが挙げられていた。また、M「英語で歌詞を書くべきだった。」(筆者訳)とする者もいた。

以上から、学習者が今回の発表「わたしの国の歌」では、みんなで歌うことを楽しめた発表が「よい発表」であると捉えていることがうかがえた。

5. 今後の課題

本章では、2.3で述べたねらいがどの程度達成されたか、活動によってどのような教育的効果をもたらされたかについて、学習者の発表における発話とアンケート調査の結果から考察を行い、今後、活動をよりよいものにしていくにあたり検討すべき課題について述べる。

まず、1つ目のねらいの「日本の歌および、学習者が母国の歌を紹介する活動を通して、楽しみながら、日本語の表記・語彙・表現・文化について学ぶ」についてであるが、発表における発話から、学習者同士が語彙や表現を学ぶ機会を得ている様子が観察された。アンケート調査からは、クラスが楽しかった、語彙の学習に有効であったとする回答が複数得られた。また、日本の文化のみならず、クラスメイトの国の文化を学ぶことができたとの意見も見られたことから、一定の成果があったと言えよう。しかしながら、母語の発音をカタカナで表記することについては、学習に効果があったとする回答と難しさについて言及した回答があった。今後はカタカナの表記のルールを紹介や、聞いた音をカタカナで表記する練習の導入等を検討したい。

次に、2つ目のねらいの「発表を通して、日本語の運用力を向上させる」についてであるが、発表における発話から、特に発表者の日本語力が低い際に、適切な表現・指示が使用できない様子や日本語から英語に切り替わる様子が観察された。アンケート調査では、自身の発表の改善点として、日本語で話すこと、流暢さが挙げられていたことから、「わたしの国の歌」を発表する活動が日本語の運用力に向上をもたらしたかどうかについては疑問が残る。また、アンケート調査により、歌の教え方のモデルを学習者に提示する必要があることも示唆された。以上のことから、日本語の運用力の向上をクラスのねらいとするのであれば、歌のクラスの活動の見直し、改善が必要である。

では、初級のクラスにおいて、歌のクラスをより円滑に、かつより効果的に行うために

は、どのような改善が必要であろうか。改善策の一つとして、歌のクラスで必要となる語彙・表現の提示および指導を提案したい。表1は歌のクラスで必要な語彙・表現をまとめたものである。予備教育で使用されている『Situational Functional Japanese』(以下、SFJ)で学習する語彙・表現については、その後ろに初出となる課を()で示した。

表1 歌のクラスで必要な語彙・表現

語彙	意味(L5)／歌(L13)／歌詞／○行目 読む(L2)／見る(L2)／聞く(L2)／立つ(L5)／練習する(L6)／終わる(L7)／ 始める(L11)／歌う(L13)／がんばる(L20)／くりかえす／リピートする ゆっくり(L4)／もっと(L10)／(音程が)高い・低い(L10)／速い(L21)
表現	～ましょう(L3)／～てください(L5)／○○は△△語で□□です(L5) 全部(L2)・一緒に(L3)・みんなで(L14)・一人ずつ(L20)～する もう一回(L9)・もう一度(L18)／さんはい

「歌詞」「○行目」はSFJでは取り上げられていないが、教師による日本の歌の紹介や発表でのハンドアウト作成時から必要な語である。また、SFJで取り上げられているものであっても、歌のクラスを実施する段階で未習である場合には導入することが必要である。「リピートする」等は、普段の日本語の授業においても筆者らは使用しているが、学習者によっては、聞いて理解できるものではあるものの、使用できるものではなかったことがうかがえた。これらの語彙・表現をクラスの初回にハンドアウトで提示する、教師による日本の歌の紹介の際に意識的にくり返し使用する、「わたしの国の歌」の発表準備および発表において留意・使用させることで、定着・適切な場面での運用につなげたいと考える。

上記の改善案に加え、日本語の歌および学習者の国の歌の選曲にも留意・検討が必要である。まず、教師による日本の歌の紹介では、アンケート調査で明らかになった学習者のニーズやモチベーションを考慮して、歌のジャンルを広げることや歌の数を増やすことを検討したい。学習者の国の歌の選曲についても、アンケート調査の結果から、発表者・学習者共に、短く、速すぎず、覚えやすい歌を選んだことがよい発表であったという評価につながっていたことから、選曲の際にはこれらの点に留意させるべきであろう。その他、ハンドアウトの作成は教室内のパソコンを使用して行ったが、フォントがインストールされていない言語があった。こうした使用機器についても、教師による事前の確認が必要である。

6. おわりに

お楽しみクラスに歌を取り入れるという初めての試みを行ったが、3.2では学習者間のやりとりを通した言語面での学びがうかがえ、4.2では学習者がこの活動を楽しみ、かつ

日本語学習においても有用であったと評価していることがわかった。また、「わたしの国の歌」の発表は、学習者が歌を通して互いの国の文化や社会を知る場でもあった。今後は、全体を見直し、学習者が日本だけではなくクラスメイトの国の文化を楽しく学びながら、日本語力の向上も図れる活動としたい。

注

1. ハンドアウトは授業終了後全員分を授業の成果物として冊子にまとめ、学習者に配布した。

参考文献

- 宇佐美まゆみ (2011) 「基本的な文字化の原則 (Basic Transcription System for Japanese : BTSJ) 2011年版」
<http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/usamiken/btsj2011.pdf> (2015年2月18日閲覧)
- 国際交流基金 (1999) 「授業のヒント 日本語で歌いましょう」『日本語教育通信』国際交流基金
http://www.jpf.go.jp/j/japanese/survey/tsushin/dw_pdfs/tushin33_p18-19.pdf
(2015年2月18日閲覧)
- 国際交流基金 (2010) 「授業のヒント 歌を使った中・上級の教室活動」『日本語教育通信』国際交流基金
<http://www.jpf.go.jp/j/japanese/survey/tsushin/hint/201004.html> (2015年2月18日閲覧)
- 鈴木秀明・ヨフコバ四位エレオノラ (2014) 「習熟度の異なる学習者に対する授業の可能性と課題：初級日本文化クラスの実践を通して」『筑波大学留学生センター日本語教育論文集』29号：93-104
- 筑波ランゲージグループ (1992) 『Situational Functional Japanese』凡人社
- 鶴町佳子 (2008) 「中・上級の成人学習者を対象とした「かるた作り」活動」『日本語教育方法研究会誌』15巻2号：50-51
- 保坂敏子・奥原淳子 (2004) 「学習者同士のインターアクションにおける学びの実態」『小出記念日本語研究論文集』12号：41-59
- 三谷絵里 (2014) 「初級日本語学習者を対象としたカルタ活動とその試み」『筑波大学留学生センター日本語教育論文集』29号：119-13

資料 2

	クラス全体について	クラスについて	発表について	4.自分の発表について、よかった点を書いてください。	4.自分の発表について、改善したほうがいい点があれば、書いてください。	その他
A	1.このクラスの活動はどうでしたか。 2.活動の回数はどうでしたか。 3.先生が紹介した日本の歌はどうでしたか。	4.この活動は日本語の勉強に役に立ちましたか。 5.クラスの活動について、褒めや改善した方がいい点があれば、おしえてください。 6.このクラスはどのくらい面白いですか。 7.このクラスはどのくらい面白いですか。	1.準備(母語教員、カタカナ発音、日本語限、夕張持持すこと、歌のスケジュール、時間)はどうでしたか。 2.そのとき、まい登とうびのしんがめめにみんなはとてましたのしかつたてました。 3.全部でいいです。	3.自分の発表について、よかった点を書いてください。 4.自分の発表について、改善したほうがいい点があれば、書いてください。 5.日本こではなすと 6.私のお短いはいいです。	このクラスについて自由に書いてください。	
B	このクラスの活動はどのくらい面白いですか。	とてもおもしろくて、いいです。	はい。	私の歌は簡単で、短いです。	このクラスはどのくらい面白いですか。	
C	I think they are appropriate and should not be changeable.	They were interesting and skillfully crafted	Yes. Because I learned a lot about Japan I would not have found in text books.	All the above we appropriate putting into consideration the schedule and length of the intensive course.	NONE	
D	I think the activities were well planned in order to achieve the purpose of class.	The songs show me some of the education in Japan, for instance children's songs.	Yes, it helped to speak a little more Japanese.	I think it went well, perhaps some timing was not enough.	NONE	
E	The activities were very timely and interesting because normally by LESSON4 people are tired and activity make them lively before end of class.	The Japanese songs that we learn in class enable us to learn basic Japanese words easier because music/songs brings excitement and help our mind in getting the meaning quickly.	Yes, the activity really useful in studying Japanese language. I love this activities.	After a number of presentation, I was able to be confident and hold in using my phnongs that I lean in class.	I love this class to the fullest. I wish to convey my appreciation to all the hardworking teachers and at the apologise for being absent at times. I learn a lot and may the good lord bless all the teachers.	
F	interesting	Japan culture, Japan poem	helped levelup writing skill	good	use youtube or pictures.	-give more time for Japanese songs. -For example sing it bring Two classes: Like this it can be moreprofitable. X Give the poem with blanks and ask to put the appropriate words missing.
G	Really interesting to lean children's songs from my friends' country.	It's good.	Yes it is. And also to understand more about Japanese's style of songs from our country.	My friends really show their effort and during the activities we had so much fun together.	I wish I could deliver my presentation better and more interesting for my audience.	Why this class must end? Lol Hopefully this activity will still exist in next Japanese intensive program.

初級日本語学習者を対象とした「歌のクラス」の実践報告

	クラス全体について	発表について	3.自分の発表について、よかった点を書いてください。	4.自分の発表について、改善したほうが良い点があれば、書いてください。	その他
H	1.このクラスの活動はどうでしたか。 2.活動の回数はどうでしたか。 3.先生が紹介した日本の歌はどのようでしたか。 4.この活動は日本語の勉強に役に立ちましたか。 5.クラスの活動について、要望や改善した方がいい点があれば、おしえてください。	1.羨望 (母語歌謡、ガクカナ表記、日本語訳、夕イェンブ)はどうでしたか。 2. They are fine I think. I can't think of any more improvement. 3. They are fine I think. I can't think of any more improvement. 4. Maybe the presentation of each person should have a time limit. 5. They are fine I think. I can't think of any more improvement. Maybe the next time we can go together to a Japanese concert!	My song in this presentation is easy and short. So it is easy for everybody to follow. Easy song.	I could have made everyone sing because it was a bit easy. Yes, speak more nihongo.	It's perfect. Pls give more Japanese traditional song & the lyrics to the teacher. Totally this activity has given me more chance to know more about Japan & practice Katakana.
I	1.このクラスの活動は日本語の勉強に役に立ちましたか。 2.活動の回数はどうでしたか。 3.先生が紹介した日本の歌はどのようでしたか。 4.この活動は日本語の勉強に役に立ちましたか。 5.クラスの活動について、要望や改善した方がいい点があれば、おしえてください。	1.羨望 (母語歌謡、ガクカナ表記、日本語訳、夕イェンブ)はどうでしたか。 2. They are fine I think. I can't think of any more improvement. 3. They are fine I think. I can't think of any more improvement. 4. Maybe the presentation of each person should have a time limit. 5. They are fine I think. I can't think of any more improvement. Maybe the next time we can go together to a Japanese concert!	My song in this presentation is easy and short. So it is easy for everybody to follow. Easy song.	I could have made everyone sing because it was a bit easy. Yes, speak more nihongo.	It's perfect. Pls give more Japanese traditional song & the lyrics to the teacher. Totally this activity has given me more chance to know more about Japan & practice Katakana.
J	1.このクラスの活動は日本語の勉強に役に立ちましたか。 2.活動の回数はどうでしたか。 3.先生が紹介した日本の歌はどのようでしたか。 4.この活動は日本語の勉強に役に立ちましたか。 5.クラスの活動について、要望や改善した方がいい点があれば、おしえてください。	1.羨望 (母語歌謡、ガクカナ表記、日本語訳、夕イェンブ)はどうでしたか。 2. They are fine I think. I can't think of any more improvement. 3. They are fine I think. I can't think of any more improvement. 4. Maybe the presentation of each person should have a time limit. 5. They are fine I think. I can't think of any more improvement. Maybe the next time we can go together to a Japanese concert!	My song in this presentation is easy and short. So it is easy for everybody to follow. Easy song.	I could have made everyone sing because it was a bit easy. Yes, speak more nihongo.	It's perfect. Pls give more Japanese traditional song & the lyrics to the teacher. Totally this activity has given me more chance to know more about Japan & practice Katakana.
K	1.このクラスの活動は日本語の勉強に役に立ちましたか。 2.活動の回数はどうでしたか。 3.先生が紹介した日本の歌はどのようでしたか。 4.この活動は日本語の勉強に役に立ちましたか。 5.クラスの活動について、要望や改善した方がいい点があれば、おしえてください。	1.羨望 (母語歌謡、ガクカナ表記、日本語訳、夕イェンブ)はどうでしたか。 2. They are fine I think. I can't think of any more improvement. 3. They are fine I think. I can't think of any more improvement. 4. Maybe the presentation of each person should have a time limit. 5. They are fine I think. I can't think of any more improvement. Maybe the next time we can go together to a Japanese concert!	My song in this presentation is easy and short. So it is easy for everybody to follow. Easy song.	I could have made everyone sing because it was a bit easy. Yes, speak more nihongo.	It's perfect. Pls give more Japanese traditional song & the lyrics to the teacher. Totally this activity has given me more chance to know more about Japan & practice Katakana.
L	1.このクラスの活動は日本語の勉強に役に立ちましたか。 2.活動の回数はどうでしたか。 3.先生が紹介した日本の歌はどのようでしたか。 4.この活動は日本語の勉強に役に立ちましたか。 5.クラスの活動について、要望や改善した方がいい点があれば、おしえてください。	1.羨望 (母語歌謡、ガクカナ表記、日本語訳、夕イェンブ)はどうでしたか。 2. They are fine I think. I can't think of any more improvement. 3. They are fine I think. I can't think of any more improvement. 4. Maybe the presentation of each person should have a time limit. 5. They are fine I think. I can't think of any more improvement. Maybe the next time we can go together to a Japanese concert!	My song in this presentation is easy and short. So it is easy for everybody to follow. Easy song.	I could have made everyone sing because it was a bit easy. Yes, speak more nihongo.	It's perfect. Pls give more Japanese traditional song & the lyrics to the teacher. Totally this activity has given me more chance to know more about Japan & practice Katakana.
M	1.このクラスの活動は日本語の勉強に役に立ちましたか。 2.活動の回数はどうでしたか。 3.先生が紹介した日本の歌はどのようでしたか。 4.この活動は日本語の勉強に役に立ちましたか。 5.クラスの活動について、要望や改善した方がいい点があれば、おしえてください。	1.羨望 (母語歌謡、ガクカナ表記、日本語訳、夕イェンブ)はどうでしたか。 2. They are fine I think. I can't think of any more improvement. 3. They are fine I think. I can't think of any more improvement. 4. Maybe the presentation of each person should have a time limit. 5. They are fine I think. I can't think of any more improvement. Maybe the next time we can go together to a Japanese concert!	My song in this presentation is easy and short. So it is easy for everybody to follow. Easy song.	I could have made everyone sing because it was a bit easy. Yes, speak more nihongo.	It's perfect. Pls give more Japanese traditional song & the lyrics to the teacher. Totally this activity has given me more chance to know more about Japan & practice Katakana.